

歯学教育学基礎実習（二瓶智太郎）

Training of Dental Education (Tomotaro Nihei)

キーワード

- ① 歯学教育学
- ② 大教室における講義法
- ③ teaching assistant
- ④ problem based learning(PBL)・team based learning (TBL)
- ⑤ 成績の評価

授業概要

歯学教育学基礎実習は、歯学教育学入門で学習した基本的知識について、実際の教育現場で実践、体験することにより、理解を深め身に付けることを目的として開講する。具体的には、teaching assistantとして実際の教育現場に参加することにより、KJ法、problem based learningなどの学修方略を実践したり、指導教員のteam based learningの教育補助等の実習を行うことで、教育の実践や開発を行うために必要な基本的な知識に関する理解を深めるとともに、教育に必要なIT技術を身に付けるための実習を行う。

授業科目の学修目標

歯学教育学を学ぶことは、将来の大学教員候補生としての必要不可欠な条件であり、大学院では各種教育方略、評価方法、学習支援の知識と方法などをteaching assistantを通じて必要な知識・態度・技能を包括的に修得することを目標とする。

授業計画

- ① 大教室における講義法12コマ
講義の準備を通じて、講義計画の立案、プレゼンテーション資料の作成、配布資料の作成の基本を教授する。
- ② PBLチュートリアル 24コマ
KJ法、二次元展開法やPBLチュートリアルに事前準備、TA参加を通じて方略、評価方法、学習支援の知識と方法などを教授する。
- ③ TBL 12コマ
Team based learning(TBL)に事前準備、TA参加を通じて方略、評価方法、学習支援の知識と方法などを教授する。
- ④ 教育に必要なIT技術 12コマ
IT技術を用いた成績の評価分析法を教授する。

実習担当教員 二瓶智太郎 菅谷彰 花岡孝治 板宮朋基 窪田光慶 吉田彩佳

教科書および参考書

実践PBLチュートリアルガイド 編者 吉田一郎、大西弘高 南山堂
TBL-医療人を育てるチーム基盤型学習 瀬尾宏美監修、Larry K. Michaelsen編集 シナジー

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

実習の前には、マニュアルを指導教員に確認をし、理論を熟知して実習に臨むこと。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 大教室における講義の準備を教員とともにできる。
- ② PBLチュートリアルの理論を理解し実践することができる。
- ③ Team based learning(TBL)の理論を理解し実践することができる。
- ④ 教育に必要なIT技術の理論を理解し実践することができる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	実技	その他
20%	0%	0%	0%	20%	0%	20%	40%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った実習の知識の理解度を判定する。1回20%
- ・ポートフォリオは、毎回の実習の振り返りの集計と資料の集積を判定する。トータル20%
- ・実技は、ITを用いて教育評価の分析を行う。トータル20%
- ・その他は、TA時に観察記録にて判定する。トータル40%

理想的な達成レベルの目安

歯学教育学基礎実習の理想的な達成レベルは80%以上とする。